

科目名	人間と科学Ⅱ(倫理学)	英語科目名	Cultural Science Ⅱ (Ethics)
開講年度・学期	平成28年度・後期	対象学科・専攻・学年	5年全学科
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	1単位	単位種類	履修単位
担当教員	上野 哲	居室(もしくは所属)	講義棟2階
電話	0285-20-2100	E-mail	tueno@oyama-ct.ac.jp
授業の到達目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
1. 科学技術時代にふさわしい新たな倫理が必要になった背景を理解できること。	①	D	b
2. これからの時代に必要とされる専門家と市民の倫理について説明できること。	①	D	b
3. 応用倫理分野の問題解決策について、説得力を伴う持論を展開できること。	⑥	E	d-4
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1: 毎回の授業において設定した設問に対する考察(レポート提出)。(14回) レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の内容を理解している。(5点) [論理性] 論理的に記述されている。(5点) [持論の展開] 持論を展開している。(5点)			
達成目標2及び3: 課題に対するレポート(学期末レポート)提出。(1回) レポートの評価基準 [設問条件の理解] 設問の条件を踏まえている。(15点) [課題内容理解] 課題の内容を理解している。(15点) [論理性] 論理的に記述されている。(15点) [独自性] 独自の視点に基づいて論述を試みている。(15点) [現実性] 現実的な考察をおこなっている。(15点) [説得力] 論理的・現実的な考察を独自の視点でおこなっている。(25点)			
達成目標1にかかわるレポート(14回・15点×14回=210点満点)および達成目標2及び3にかかわるレポート(1回・100点満点)について、合計点が60%以上の場合、達成とする。			
評価方法			
毎回の授業におけるレポート(14回分)の成績及び学期末レポート(1回)の成績: 100%			
授業内容			
1. 科学技術倫理と生命倫理			
2. 生殖技術の発展と権利の問題			
3. 日本の生命観と西欧の生命観			
4. スポーツとドーピング問題			
5. 「性」と「身体」の問題			
6. 「健康」と「標準値」の関係			
7. 脳死と臓器移植			
8. 環境を「保全する」とは			
9. 「ハードゾーニング」と「ソフトゾーニング」			
10. ニセ科学が引き起こす問題			
11. 科学ジャーナリズムをめぐる諸問題			
12. ホイッスルブローイングの長所と短所			
13. 企業の社会的責任			
14. 消費者・市民の社会的責任			
15. トランス・サイエンスの時代におけるSTS教育			
キーワード	応用倫理学, 生命倫理, 自己決定, 自己責任, 未来世代, トランス・サイエンス, STS		
教科書	使用しない。毎回プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて適宜紹介する。		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	倫理・社会, 哲学, 歴史学		
現学年の関連科目	人間と科学Ⅰ		
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
シラバスの内容に変更があった場合は受講者に対して速やかに説明する。			
シラバス作成年月日	平成28(2016)年3月22日		